

# 2016 年度 事業報告



社会福祉法人  
北海道いのちの電話

## いのちの電話の活動基本方針

いのちの電話は

1. 自殺を思うほどに悩む人の隣人として共に考え、心の支えになることを目的としています。
2. 秘密を必ず守ります。
3. 24 時間いつでもかけられます。
4. 名前を告げる必要はありません。
5. 相談は無料です。
6. お互いの宗教や思想は尊重します。
7. 相談にあたるのは所定の研修を受けた相談員です。

### 沿革

この活動は 1953 年にロンドンにおいて自殺予防を目的として始められました。世界 400 センター以上で活動が続けられています。北海道いのちの電話は 1979 年 1 月 25 日に開局しました。

# ごあいさつ

理事長 南 槇子

2016年度の私どもの活動に対しまして、企業・団体、個人の皆様をはじめ、北海道、札幌市から、ご支援とご協力を賜りましたことをこころから感謝を申し上げます。

北海道いのちの電話は1979年に開局し、以来37年間、約800名の相談員が、58万件弱の相談を受けてまいりました。

2016年度から当法人は、自殺予防対策の一つの柱である「ゲートキーパー」の基礎研修を札幌市から受託し、初年度の昨年は延べ109人の方々の研修を実施いたしました。この研修の支援者として事業推進委員会の「サポーターズ」が事前研修を数回受講して、準備を整え、その役割を堅実に果たしました。この「サポーターズ」の活動は、各方面から高い評価をいただき、新たなうねりの予感を与えています。

50人足らずの相談員が時間限定の相談体制でスタートした運動は、いま180人あまりで、365日24時間活動するまでに育ちました。しかし、悩んでかけてくる方々の5～6%しか受けることが出来ない状況で、この2～3年は年間相談件数が2万件を下回っております。相談員が足りない、資金が不足していると嘆いてばかりでなく、今年度も「ゲートキーパー研修」をより多く開催し、PTA組織、学校などに、「いのちの電話」の存在と共に、人との関係の中で「心から人の話を聴く」ことを、社会に積極的に発信していこうと考えております。

最後になりますが、365日、24時間、眠らぬダイヤルとして、繋げているボランティアの相談員の皆様、相談員を支えてくださっている専門家の皆様に心からお礼申し上げます。

## 2016年度 北海道いのちの電話 概況

設立	1979年1月25日
法人認可	1983年12月23日
組織	理事10名 評議員19名 監事2名
在籍相談員数	176名(2017年3月末現在)
年間受信件数	16,916件(男8,375件 女8,541件)
相談時間	24時間(年中無休)
相談員研修	養成研修 1年目 毎週1回 2年目 月2回 継続研修 毎月1回
関連団体	日本いのちの電話連盟 各地いのちの電話 50局

# 2016年度 委員会報告

## 研修委員会

委員長 佐々木敏明

2016年度の研修テーマは「傾聴、寄り添うとは…」で、それを軸に、資質の維持・向上に努めました。養成部門の組織、及びより充実させた内容の相談員研修にするため、それらの検証・整備に取り組みました。

これらの研修及び実習には精神医学や、臨床心理学の専門職の方々に指導をいただいておりますが、悩む人に寄り添う意識の向上、傾聴力を高めるために温かい組織と仲間の協力体制づくりには不断の努力が必要です。

## 事業推進委員会

委員長 牧 泰昌

40名のサポーターズの協力のもと、法人の活動を市民に広く知っていただき、協力、支援の輪を大きくする活動をしました。

9月9日(金)世界自殺予防デー啓発テッシュ配布を JR 札幌駅、東・西改札口前にて実施しました。

9月10日(土)「いのちミュージックデイ(IMD)」地下歩行空間北3条交差点広場、8組演奏しました。

札幌市から受託した「ゲートキーパー研修」の講師養成研修をサポーターズに受講していただき、ゲートキーパー研修の支援者として参加しています。

## 支援企画委員会

委員長 坪田 伸一

市民公開講演会やHIDフェスタ、テーブルショップなどを通じて、相談員をはじめ一般の方々に対し、法人活動への理解と協力を呼び掛ける活動を行いました。

2月11日の市民公開講演会では、ヴァイオリニストの太平まゆみさんをゲストに招き、「音楽の力」をテーマに当法人の牧理事との対談やミニステージで聴衆を魅了しました。

1月14日の「HIDフェスタ」は、相談員同士の自由な交流や息抜きをする語らいの場として、2回目の開催となりました。手作り品を販売し法人に寄付するテーブルショップは、相談員の協力で支えられ5年目を迎えました。この活動は2016年度をもって一旦休止します。

## 広報委員会

委員長 吉田 陸雄

年3回の広報を発行しました。

その内容は

127号「“ひと”が“おかね”が」（眠らぬ電話の台所事情）

128号「地域に、職場に ゲートキーパーを」（札幌市の自殺対策事業を受託）

129号「1日1回は音楽に親しんで…」（ヴァイオリニスト 太平さんを講師に  
市民公開講演会）

## 倫理委員会・苦情対応委員会・財務委員会

今年度は開催されませんでした。

# 2016（平成28）年 相談電話統計

## 1. 受信状況

2016年(1月～12月)の総受信件数は16,916件で、昨年より403件減少しています。性別では、男性8,375件、女性8,541件、と女性からのものが、男性からのそれを上回りました。

1日の平均受信数は46件(前年47件)です。1件当たりの相談時間数が36.4分(前年35.4分)と長めとなっており、深刻な相談が増えたことが要因と思われます。

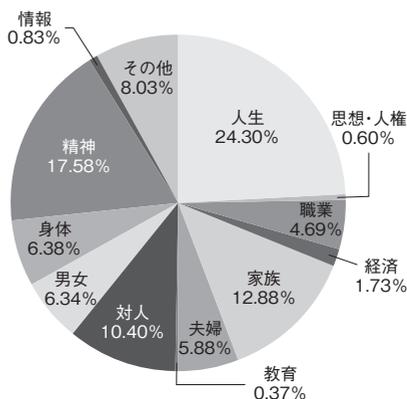
通常電話での、自殺傾向総数は2,021件で、性別では男性839件、女性1,182件、総受信数の11.9%で、男性が前年より増えており、女性は減少しています。女性は男性の1.4倍の件数となっています。

自殺予防フリーダイヤルは、毎月10日午前8時～午後9時30分(うち5月・9月・11月は24時間受信)年間12回の受信数は408件(男性は209件、女性199件)でした。

## 2. 問題別件数

「人生」が24%と多く、「どう生きていけばよいか」「生き甲斐がない」など、先行きの不安や「独りぼっち」「孤独で寂しい」と語る相談が少なくありません。また、「精神」は、「家族の理解がない」「何年も通院しているがよくなるらない」と話す方が多く、精神を病んでいる方が自殺に傾く割合の多いことから、今後もしっかりと意識をもって傾聴していくことが大切です。

	男	女	2016 合計	2015 合計
人 生	2,153	1,957	4,110	4,313
思想・人権	49	53	102	105
職 業	458	336	794	963
経 済	130	162	292	265
家 族	718	1,461	2,179	2,284
夫 婦	441	553	994	871
教 育	24	39	63	72
対 人	534	1,225	1,759	1,542
男 女	532	540	1,072	1,144
身 体	585	495	1,080	957
精 神	1,523	1,450	2,973	3,054
情 報	82	58	140	163
そ の 他	1,146	212	1,358	1,586
総 計	8,375	8,541	16,916	17,319

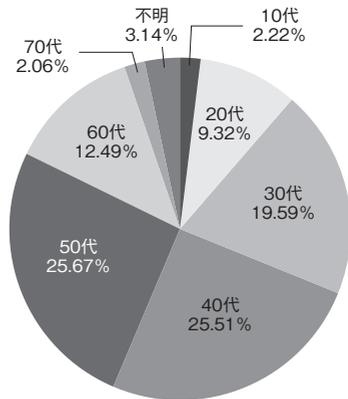


### 3. 年代別件数

総件数が前年比 403 件減少しているにもかかわらず、男女計で 50 代（431 件）、60 代（381 件）、70 代（49 件）が増加となっています。

年代別構成は、50 代 25.6%、40 代 25.5%、30 代 19.6%と、この 3 年代で全体の 70%超となっています。

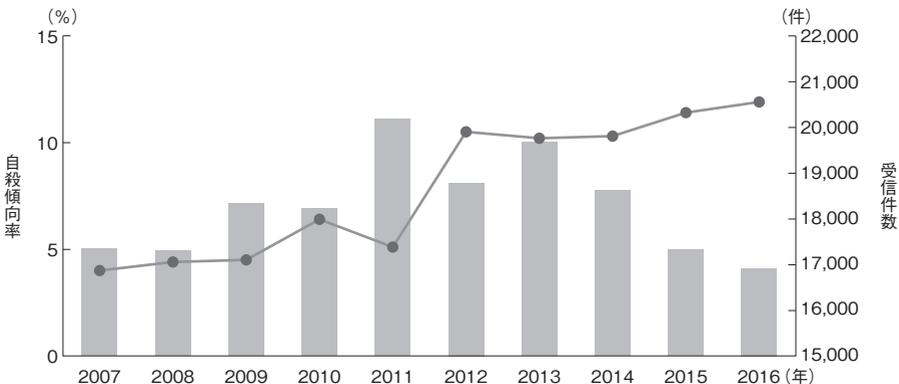
	男	女	2016 年	2015 年
10 代	319	57	376	465
20 代	871	705	1,576	1,902
30 代	1,658	1,655	3,313	3,567
40 代	2,202	2,114	4,316	4,918
50 代	2,137	2,205	4,342	3,911
60 代	743	1,370	2,113	1,732
70 代以上	107	241	348	299
不 明	338	194	532	525
合 計	8,375	8,541	16,916	17,319



#### 4. 10年間の自殺傾向率

2016年は総受信件数の11.9%と昨年より0.5%増えています。10年前と比較すると約3倍になっており、様々な困難を抱え、深刻さを訴えてきている方が増えています。

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
自殺傾向件数	689	754	831	1,159	1,020	1,968	2,002	1,914	1,967	2,021
総受信件数	17,341	17,297	18,336	18,220	20,176	18,787	19,679	18,625	17,319	16,916
自殺傾向率(%)	4.0%	4.4%	4.5%	6.4%	5.1%	10.5%	10.2%	10.3%	11.4%	11.9%

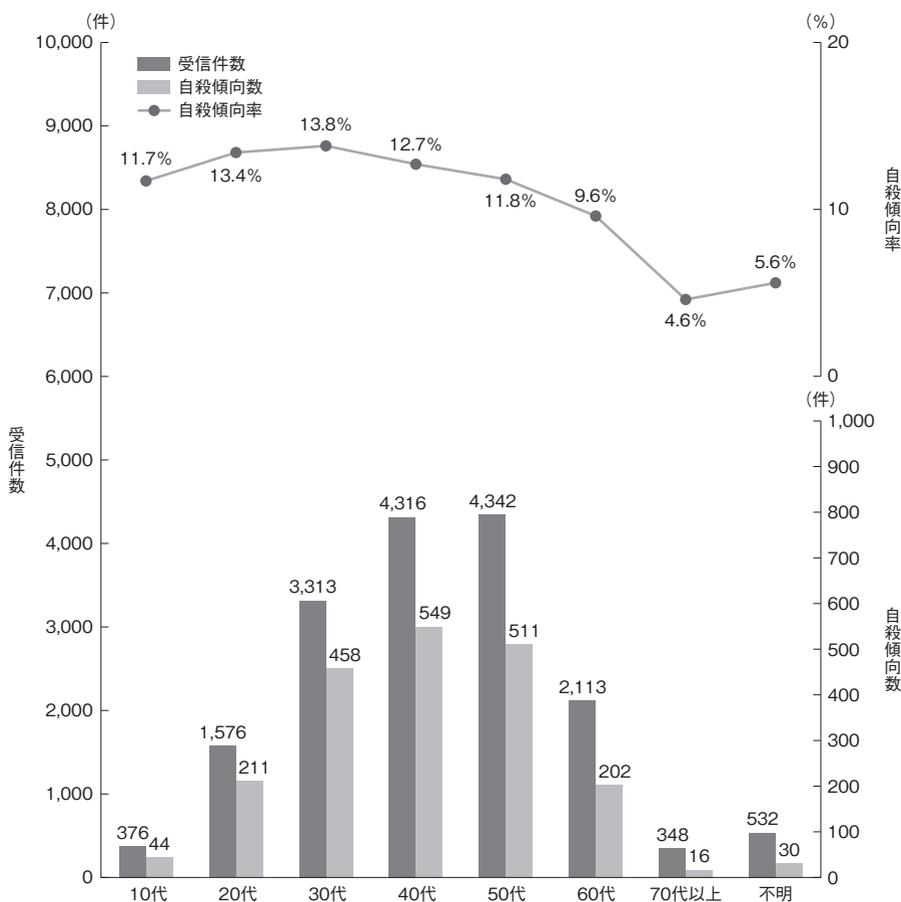


#### 5. 年代別受信件数と自殺傾向率

自殺傾向率は、2015年30代が13.1%であったが、2016年には20代も13.4%と13%台に増加しています。また、10代では前年比2.5%の増加となって全年齢中最大の増加となっており、若い世代への「いのちの電話」のより広範な周知徹底が必要と思われます。

また、自殺傾向ありのうち自殺未歴ありの割合は、全体で41.5%、年代別では50代が46.7%、60代では48%と未遂者対策の重要性も必要と思われます。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
受信件数	376	1,576	3,313	4,316	4,342	2,113	348	532	16,916
自殺傾向数	44	211	458	549	511	202	16	30	2,021
自殺傾向率 (%)	11.7%	13.4%	13.8%	12.7%	11.8%	9.6%	4.6%	5.6%	11.9%
自殺傾向率(前年)	9.2%	12.6%	13.1%	12.9%	9.5%	8.3%	9.0%	7.2%	11.4%
傾向のうち未遂歴あり(件数)	13	91	165	222	239	97	5	6	838
傾向ありのうち未遂歴ありの割合	29.5%	43.1%	36.0%	40.4%	46.8%	48.0%	31.3%	20.0%	41.5%



## 2016年度 収支決算書 (2016年4月1日～2017年3月31日)

### 収入の部

(単位：円)

科目	2015年度	2016年度	前年比	備考
寄付金	12,081,300	11,587,451	96%	個人寄付・企業寄付・募金箱
補助金	2,900,000	2,900,000	100%	北海道・札幌市補助
分配金	1,100,000	1,100,000	100%	共同募金配分金
助成金	800,000	1,070,000	134%	道新・札信金・労金・馬主財団
養成研修参加費	684,500	486,000	71%	
その他	120,726	230,721	191%	金利他
収益事業会計繰入金	1,676,514	1,226,830	73%	コンサート益金等
収入合計	19,363,040	18,601,002	96%	

### 支出の部

(単位：円)

科目	2015年度	2016年度	前年比	備考
相談事業費	5,923,787	4,621,223	78%	
事業管理費	1,342,106	1,097,328	82%	電話室家賃・備品レンタル費他
養成研修費	1,750,356	1,318,920	75%	養成講師謝礼他
継続研修費	1,823,890	1,507,907	83%	相談員研修講師謝礼他
研究調査費	86,460	82,940	96%	全国大会参加費助成他
広報費	880,815	524,108	60%	広報印刷費、発送費、研修会他
支援企画費	40,160	90,020	224%	公開講座事務費他
センター管理費計	12,290,503	11,689,308	95%	
管理費	2,748,034	2,820,986	103%	光熱費・事務所家賃・備品レンタル費他
事務費	1,084,401	716,247	66%	通信費等事務局諸費用
事業推進費	2,350,536	2,313,509	98%	分室家賃・分室運営経費等
人件費	6,107,532	5,838,566	96%	事務局員給与
連盟分担金	330,000	306,000	93%	
減価償却費	390,137	468,600	120%	
支出合計	18,934,427	17,085,131	90%	
収支差額	428,613	1,515,871	354%	
合計	19,363,040	18,601,002	96%	

## 2016年度 貸借対照表 (2017年3月31日現在)

借方

(単位:円) 貸方

(単位:円)

科目	当年度末	前年度末	科目	当年度末	前年度末
流動資産	7,849,842	7,088,004	流動負債	117,064	76,137
現金	47,098	48,369	預り金	117,064	76,137
銀行預金	5,116,424	5,262,407			
前払費用	77,100	79,500			
未収金	401,426	1,676,514			
仮払金	0	0	基金	0	16,336,000
立替金	2,207,794	21,214	基本財産基金	0	16,336,000
固定資産	0	21,638,174			
電話加入権	0	336,000	基本金	16,220,800	0
什器備品	0	1,249,674	基本金	16,220,800	0
建物付属施設	0	52,500			
基本財産基金引当預金	0	16,000,000			
基本財産積立金引当預金	0	2,000,000			
事業運営積立金引当預金	0	2,000,000	基本財産積立金	0	2,000,000
			事業運営積立金	4,000,000	2,000,000
固定資産	22,317,934	0			
基本財産	16,220,800	0			
電話加入権	220,800	0	繰越金	9,829,912	8,314,041
定期預金	16,000,000	0	前期繰越金	8,314,041	7,885,428
			当期収支差額	1,515,871	428,613
その他の固定資産	6,097,134	0			
什器備品	1,557,234	0			
建物付属設備	39,900	0			
定期預金	4,500,000	0			
			純財産合計	30,050,712	28,650,041
資産合計	30,167,776	28,726,178	負債及純財産合計	30,167,776	28,726,178

(当年度中に科目変更がありました)

## 2016年度 監査報告

社会福祉法人 北海道いのちの電話 理事長 南 槇子 殿

2016年度の一般会計と特別会計の会計収支について記録計算に相違なく、また、業務執行状況は定款、諸規程に照らし適正に運営されていることを確認した。

監査日時 2017年5月18日

監査場所 北海道いのちの電話会議室

監事

佐藤正晴 

## 2017年度 事業計画

法人基本方針	運営環境の変化に対応する柔軟な組織体質の構築
研修委員会	継続研修の体制、内容の検討整備
事業推進委員会	イベント活動の充実、若年層への「いのちの電話」周知、GK研修の支援
広報委員会	年3回の広報誌発行による法人活動の周知
支援企画委員会	市民公開講座の実施

## 2017年度 収支予算案

### 収入の部

(単位：円)

科目	2016年度実績	2017年度予算	前年比	備考
寄付金	11,587,451	12,110,000	105%	
補助金	2,900,000	2,900,000	100%	北海道・札幌市
分配金	1,100,000	1,100,000	100%	共同募金分配金
助成金	1,070,000	300,000	28%	道新基金・札幌金基金
養成研修参加費	486,000	680,000	140%	
その他	230,721	100,000	43%	金利等
収益事業繰入金	1,226,830	1,210,000	99%	
収入合計	18,601,002	18,400,000	99%	

### 支出の部

(単位：円)

科目	2016年度実績	2017年度予算	前年比	備考
相談事業費計	4,621,223	5,420,000	117%	
事業管理費	1,097,328	1,400,000	128%	電話室賃料・光熱費
養成研修費	1,318,920	1,250,000	95%	
継続研修費	1,507,907	1,790,000	119%	
研究調査費	82,940	30,000	36%	対外研修参加費他
広報費	524,108	890,000	170%	広報誌印刷発送他
支援企画費	90,020	60,000	67%	公開講座費用他
センター管理費計	11,689,308	12,290,000	105%	
管理費	2,820,986	2,850,000	101%	事務局賃料・光熱費
事務費	716,247	820,000	114%	
事業推進費	2,313,509	2,320,000	100%	分室賃料他
人件費	5,838,566	6,300,000	108%	事務局人件費
分担金	306,000	300,000	98%	日本いのちの電話連盟
減価償却費	468,600	300,000	64%	
支出合計	17,085,131	18,310,000	107%	
収支差額	1,515,871	90,000	6%	

## 役員名簿 就任期間 2017年5月27日～2019年度定時評議員会終結の時まで

理事長	南 禎子				
常務理事	高杉 純二				
理事	佐々木敏明	池田 輝明	島津 宏興	嶋津 博	
	坪田 伸一	牧 泰昌	宮崎 善昭	吉田 陸雄	
監事	佐藤 正晴	谷 永門			
評議員	天田 孝	池田 光幸	板垣 昭彦	伊藤 雅彦	
	今井 啓二	大町 信也	岡崎 大介	岡島 光行	
	小谷 和雄	今野 涉	榊原 綾子	返町 賢治	
	高橋 義人	土島 一幸	福迫尚一郎	棒田 敬二	
	水野 匡勝	森田 健児	米倉美佐男		

# 組織図

